



環境農政常任委員会県外調査報告

環境農政常任委員会の県外調査で、(9/4~9/6)北海道へ行って来ました。調査先をすべてご紹介したいので私のブログから抜粋して掲載いたします。

①東京農業大学オホーツクキャンパス網走寒冷地農場。

東京農業大学オホーツクキャンパス生物産業学部所属する網走寒冷地農場の広さは212.2ha、野球のグラウンドがおよそ17面とることができます。

この農場は、3つの役割を持っています。それは、「営農」「教育」「研究」。農場では実際の農業が営まれている(営農)と同時に農大生のための実習教育、試験研究農場(教育)であるだけでなく、地域の農業に刊する問題を解決するために、産(地域営農集団)・官(網走市)・学(東京農業大学)が一体となり、教育、試験、研究を、昭和57年の開設以来行っています。他の農業系大学農場に例をみない、地域農業密着型の大学農場です。

また、地域の農家と営農集団のひとつとして機械を共同所有しています。農場で生産販売している主な作物は、テンサイ・ジャガイモ・秋播き小麦・二条オオムギ。(写真で手に持っているのはテンサイ)



神奈川県でも、地元の農業系大学と協定を締結し、連携・協力して取り組みを推進しています。東京農業大学網走寒冷地農場の取り組みを参考に、神奈川県での取り組みを、常任委員会の委員の方々と話し合っていきたいと思います。

②「津別単板共同組合」

津別単板共同組合は、丸玉産業株式会社・北海道森林組合などの地元木材関連会社を構成員とする共同組合です。北海道産のカラマツ・トドマツを使用して、単板を製造し同じ敷地内の丸玉産業で合板にしています。

原木を年間31万m³使用し18万m³の合板を製造、つまり、年間13万m³の木屑が出ることになります。この産業廃棄物をどうにかできないか?製造過程で使う、大量のエネルギーも課題。この2点を解決したのが、平成19年に稼働した「木質バイオマスコージェネレーション施設」です。これにより、必要エネルギーのほぼ全量をまかなうことができ、年間に化石燃料を原油換算で24,000kl、CO₂を69,000t削減することができました。これは、北海道の一般家庭が年間に使用する暖房灯油、16,000戸分に相当します。

年に1,000万円の「森造り基金」で、造林・育成を支援し、森林保護に努めています。森とともに生きる企業としての務めと考えると大越理事長。地球温暖化対策、廃棄物の発生抑制・循環的利用の取り組みについて、とても参考になる調査でした。

③農業生産法人(株)イソップアグリシステム。

イソップ(ISOPP)とは、

- (1)ISO14000 環境保全・持続可能社会・・・世界標準思想の内在化
 - (2)HACCP 工程管理による品質管理・・・食品衛生管理手法の導入
 - (3)Precision Agriculture 明確な意思決定可能な農業経営・・・精密農業の実践
- この3点をもじったものです。「IT活用による新しい営農システム」というコンセプトの下、環境保全・工程管理・品質管理など、科学的に意思決定できる農業を目指しています。また、製粉機メーカーと連携して、穀物や野菜を、香りや栄養成分を損なうことなく、数十ミクロン単位まで粉碎可能なシステムを導入。ミクロンフーズとして販売しています。

天候に左右される一次産業・・・就農の拡充のために、産官学の連携も図り、品質管理と環境に配慮した取り組みを調査することができました。

④北海道立総合研究機構 水産研究本部・中央水産試験場。

余市にある中央水産試験場は道内の魚類養殖や、水産物の安定供給、海洋開発、環境保全の研究拠点になっています。道内にある7か所(本部を含む)の水産試験場の取り組みの調整を行っています。

3隻の試験調査船による海水温・塩分データをとりまとめ、調査結果を速報として一般に広報している他、大学や民間企業との連携による試験研究成果を「マリンネット北海道」によって情報の共有化も図っています。

北海道の現在の漁獲量は、130万トン2,747億円。昭和50年代のピーク時に比べ半減した漁獲量ですが、人為関与により生産力を高める栽培漁業の推進を行っています。実例としては、ヒラメやニシンの人工種苗放流技術の開発、昆布や海藻が生えない磯やけ対策の試験研究、魚病の研究などがあげられます。最近では黒潮の大蛇行や水温の上昇により漁獲量に影響が出ていますが、流動環境シュミレーション水槽などの実験施設を活用し、魚礁など沿岸漁業の造成技術や、環境コントロール手法に関する研究も行っています。



農林水産業は自然が相手。

持続可能な社会を構築するためには、環境への負荷の少ない生産と消費、物質的な循環、自然と共生した暮らしといった循環・共生型の社会システムへの転換が求められています。

今回の北海道の調査は、そのことへの、飽くなきチャレンジの姿を見ることのできた、有意義な3日間でした。

(★さらに詳しい内容はブログをご覧ください。写真も沢山紹介しています。)